



コールパークとダイレクト コールパーク

この章では、保留機能であるコールパーク機能と、転送機能であるダイレクト コールパークについて説明します。これらの2つの機能は、相互排他的に扱うことをお勧めします。つまり、いずれか一方を有効にする（両方を有効にしない）ことをお勧めします。両方の機能を有効にする場合は、それぞれに割り当てられる番号が重複することなく単独で使用されるようにしてください。次の各項の情報は、これら2つの機能を最大限に活用するのに役立ちます。

- [コールパーク](#)
- [ダイレクト コールパーク](#)

コールパーク

コールパーク機能を使用すると、コールを保留にし、Cisco Unified Communications Manager システム内の別の電話機（たとえば、別のオフィスや会議室の電話機）からそのコールに応答することができます。電話機でアクティブなコールを受けているときに、[パーク] ソフトキーまたはコールパーク ボタンを押して、そのコールをコールパーク内線番号にパークすることができます。システム内の別の電話機から誰かがそのコールパーク内線番号をダイヤルすると、そのパークされているコールを取得できます。

コールパーク内線番号として、1つの電話番号またはある範囲の電話番号を定義できます。各コールパーク内線番号でパークできるコールは1つだけです。

この章では、コールパークに関する次の情報を提供します。

- [コールパークの概要 \(P.10-2\)](#)
- [コールパークのシステム要件 \(P.10-5\)](#)
- [インタラクションおよび制限事項 \(P.10-6\)](#)
- [コールパークのインストールとアクティブ化 \(P.10-9\)](#)
- [コールパークの設定 \(P.10-9\)](#)
- [コールパークのサービス パラメータの設定 \(P.10-10\)](#)
- [コールパーク番号の検索 \(P.10-10\)](#)
- [コールパーク番号の設定 \(P.10-12\)](#)
- [コールパークの設定項目 \(P.10-13\)](#)
- [コールパーク番号の削除 \(P.10-14\)](#)
- [関連項目 \(P.10-28\)](#)

コールパークの概要

コールパーク機能は Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で動作します。クラスタ内の各 Cisco Unified Communications Manager にコールパーク内線番号が定義されている必要があります (クラスタ間でコールパークを使用する方法については、[P.10-3 の「クラスタ間でのコールパークの使用」](#)を参照してください)。コールパーク内線番号として、1 つの電話番号またはある範囲の電話番号を定義できます。電話番号または番号範囲は固有である必要があります。

有効なコールパーク内線番号は、整数とワイルドカード文字 (X) から構成されます。最大 2 桁のワイルドカード文字 (XX) を設定できます (たとえば、80XX)。XX を設定すると、最大 100 個のコールパーク内線番号が提供されます。コールがパークされると、Cisco Unified Communications Manager は、次に使用可能なコールパーク内線番号を選択し、電話機にその番号を表示します。

Cisco Unified Communications Manager が、各コールパーク内線番号でパークできるコールは 1 つだけです。



(注)

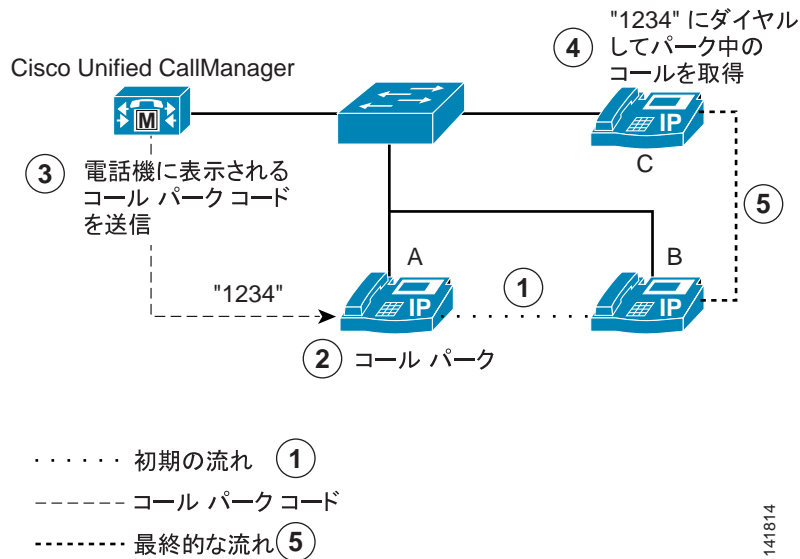
ユーザがクラスタ内のサーバ間でコールパークを使用する場合は、クラスタ内の各 Cisco Unified Communications Manager サーバにコールパーク内線番号を設定してください。設定の詳細については、[P.10-12 の「コールパーク番号の設定」](#)を参照してください。

コールパーク機能の使用

[図 10-1](#) に、コールパークのプロセスを示します。

1. 電話機 A のユーザが電話機 B にコールします。
2. 電話機 A のユーザが、プライバシーのため会議室で通話するとします。電話機 A のユーザは [パーク] ソフトキーを押します。
3. 電話機 A が登録されている Cisco Unified Communications Manager サーバは、最初に使用できるコールパーク電話番号 1234 を送信します。この番号は、電話機 A に表示されます。電話機 A のユーザは、コールパーク電話番号を確認します (電話機 C でその電話番号をダイヤルできます)。
4. 電話機 A のユーザはオフィスを出て、使用できる会議室に行きます。その会議室の電話機は、電話機 C として指定されています。ユーザは電話機 C をオフフックにし、1234 をダイヤルして、パークされたコールを取得します。
5. システムによって電話機 C と電話機 B の間にコールが確立されます。

図 10-1 コールパークのプロセス



クラスタ間でのコールパークの使用

ユーザは、割り当てられたルートパターン（たとえば、クラスタ間トランクのルートパターンとしての 80XX）とコールパーク番号（たとえば 8022）をダイヤルして、パークされたコールを別の Cisco Unified Communications Manager クラスタから取得できます。また、コーリングサーチスペースとパーティションが正しく設定されていることを確認してください。

次の例を参照してください。

パークされたコールを別のクラスタから取得する例

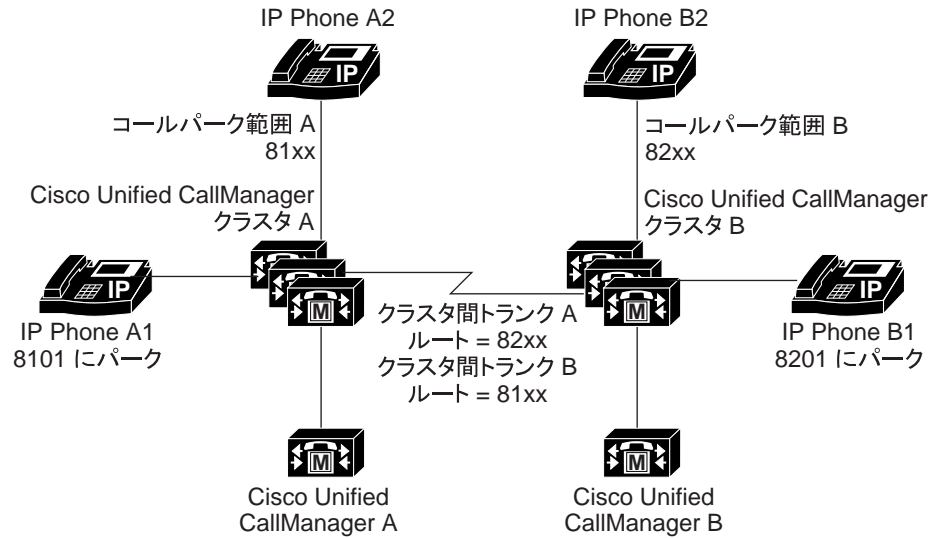
ネットワークに 2 つのクラスタ（クラスタ A とクラスタ B）があります。クラスタ A にはユーザ A1 とユーザ A2 がいます。クラスタ B にはユーザ B1 とユーザ B2 がいます。

クラスタ A には、81xx の範囲のコールパーク番号が設定されています。クラスタ B には、82xx の範囲のコールパーク番号が、管理者によって設定されています。

クラスタ A には、他のクラスタのパーク範囲へのルートパターンとして 82xx が設定されています（クラスタ B へのルート）。クラスタ B には、他のクラスタのパーク範囲へのルートパターンとして 81xx が設定されています（クラスタ A へのルート）。

ユーザ A1 が 8101 にコールをパークすると、ルートパターン設定により、クラスタ A とクラスタ B 内のすべてのユーザ（正しいパーティションが設定されている）が、パークされたコールを取得できます。ユーザ B1 が 8202 にコールをパークすると、ルートパターン設定により、クラスタ A とクラスタ B 内のすべてのユーザ（正しいパーティションが設定されている）が、パークされたコールを取得できます。図 10-2 を参照してください。

図 10-2 クラスタ間トランクによる、パークされたコールの取得



例 1

1. A1 と A2 が通話していて接続中である
2. A1 が 8101 にコールをパークする
3. B1 が 8101 にダイヤルすると、コールはクラスタ A にルーティングされる

例 2

1. B1 と B2 が通話している
2. B1 が 8201 にコールをパークする
3. A1 は 8201 にダイヤルすると、パーク中のコールを取得できる

クラスタ間トランク A は、ルート 82xx を利用して、クラスタ B へアクセスする
 クラスタ間トランク B は、ルート 81xx を利用して、クラスタ A へアクセスする

注: ユーザは、パークされたコール番号を管理できません。
 コール番号は、システムによって割り当てられます。

141815

追加情報

P.10-28 の「関連項目」を参照してください。

コールパークのシステム要件

コールパークが動作するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager 5.0 以降

次の SCCP 電話機および SIP 電話機は、Standard User と Standard Feature ソフトキー テンプレートの [パーク] ソフトキーでのコールパークをサポートしています。

- Cisco Unified IP Phone (7941、7961、7970、7971)

次の SCCP 電話機は、Standard User と Standard Feature ソフトキー テンプレートの [パーク] ソフトキーでのコールパークをサポートしています。

- Cisco Unified IP Phone (7905、7912、7920、7931、7940、7960)



(注) コールパークは、プログラム可能な回線キー機能を使用して、任意の回線（回線 1 を除く）またはボタンで設定できます。

次の SCCP 電話機は、電話ボタン テンプレートの Call Park ボタンによるコールパークをサポートしています。

- Cisco Unified IP Phone 30 (30 SP+ および 30 VIP)
- Cisco Unified IP Phone 12 (12 S、12 SP、12 SP+)
- Cisco Unified IP Phone 7910

追加情報

P.10-28 の「[関連項目](#)」を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

次の項では、コールパークにおけるインタラクションおよび制限事項について説明します。

- [インタラクション \(P.10-6\)](#)
- [制限事項 \(P.10-8\)](#)

インタラクション

次の各項では、コールパークが Cisco Unified Communications Manager アプリケーションおよびコール処理と通信する方法について説明します。

- [CTI アプリケーション \(P.10-6\)](#)
- [CTI アプリケーション \(P.10-6\)](#)
- [保留音 \(P.10-6\)](#)
- [ルート プラン レポート \(P.10-6\)](#)
- [コーリング サーチ スペースとパーティション \(P.10-7\)](#)
- [即時転送 \(P.10-7\)](#)
- [割り込み \(P.10-7\)](#)
- [ダイレクト コールパーク \(P.10-7\)](#)
- [Q.SIG クラスタ間トランク \(P.10-7\)](#)

CTI アプリケーション

CTI アプリケーション (Attendant Console など) は、コールパーク DN のアクティビティの監視などのコールパーク機能にアクセスします。コールパーク DN を監視するには、アプリケーションまたは CTI アプリケーションに関連付けられたエンド ユーザを Standard CTI Allow Call Park Monitoring ユーザ グループに追加する必要があります。

詳細については、[P.17-19](#) の「[Cisco Unified Communications Manager Attendant Console の設定チェックリスト](#)」を参照してください。

保留音

保留音を使用すると、ユーザは、ストリーミング ソースから提供される音楽を使用して、コールを保留にできます。保留音では、次の 2 つのタイプの保留を使用できます。

- ユーザ保留：ユーザが保留ボタンまたは [保留] ソフトキーを押すと、システムによってこのタイプの保留が呼び出されます。
- ネットワーク保留：ユーザが転送、会議、またはコールパーク機能をアクティブにすると、このタイプの保留が自動的に呼び出されます。

ルート プラン レポート

ルート プラン レポートには、Cisco Unified Communications Manager で設定されているパターンと電話番号が示されます。コールパークに電話番号を割り当てる前に、ルート プラン レポートを使用して、パターンと電話番号の重複を検索します。『*Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド*』の「ルート プラン レポート」の章を参照してください。

コーリングサーチスペースとパーティション

デバイスのコーリングサーチスペースに基づいてユーザによるコールパークへのアクセスを制限するには、コールパーク電話番号または範囲をパーティションに割り当てます。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「コーリングサーチスペースの設定」および「パーティションの設定」を参照してください。

即時転送

コールパークは即時転送（[即転送] ソフトキー）をサポートしています。たとえば、ユーザ A がユーザ B にコールし、ユーザ B がコールをパークしたとします。ユーザ B はコールを取得し、[即転送] ソフトキーを押してそのコールをボイスメール メールボックスに送信しました。ユーザ A に、ユーザ B のボイスメール メールボックスのグリーティングが再生されます。

割り込み

次に、コールパークでの割り込みと C 割り込みの違いについて説明します。

コールパークでの割り込み

発信先の電話機（割り込み先の電話機）がコールを制御します。割り込みの発信側は発信先の電話機に「ピギーバック」します。割り込み中でも、共通機能のほとんどが発信先の電話機に属しているため、割り込みの発信側は機能を利用できません。発信先がコールをパークした場合、割り込みの発信側はそのコール（割り込み）をリリースする必要があります。

コールパークでの C 割り込み

割り込みの発信先と発信側はピアとして動作します。C 割り込み機能は会議ブリッジを使用し、それをミートミー会議のように動作させます。両方の電話機（割り込みの発信先と発信側）がそれぞれの機能を完全に利用できます。

ダイレクトコールパーク

ダイレクトコールパークとコールパーク用 [パーク] ソフトキーを同時に設定しないことをお勧めしますが、両方を設定する可能性もあります。両方を設定する場合、コールパークとダイレクトコールパークの番号が重複しないことを確認してください。

Q.SIG クラスタ間トランク

ユーザが Q.SIG クラスタ間トランクまたは Q.SIG ゲートウェイ トランクを越えてコールをパークすると、パークされた発信側（parkee）にパーク先番号メッセージが表示されません。電話機には、パーク前に接続された番号が表示されたままです。コールはパークされ、コールをパークしたユーザはコールを取得できます。パークされた状態からコールが取得されると、コールは継続しますが、パークされた発信側には新しく接続された番号が表示されません。

追加情報

P.10-28 の「関連項目」を参照してください。

制限事項

コールパークには、次の制限事項があります。

- Cisco Unified Communications Manager が、各コールパーク内線番号でパークできるコールは 1 つだけです。
- 各コールパーク電話番号、パーティション、および範囲が Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。
- 複数ノードにわたるシェアドライン デバイスの場合、回線は、デバイスが最初に登録されたノードに登録されます。たとえば、subscriber2 からのデバイスが最初に登録され、回線が subscriber2 およびパブリッシャ サーバで作成された場合、回線は subscriber2 に属します。各ノードは、コールパーク番号で設定する必要があります。
- フェールオーバー/フェールバックを行うには、パブリッシャ サーバとサブスクリバ ノードでコールパーク番号を設定します。この設定を使用すると、プライマリ ノードがダウンした場合でも、回線/デバイスの割り当てがセカンダリ ノードに変更され、セカンダリ ノードのコールパーク番号が使用されます。
- デバイスを登録する各 Cisco Unified Communications Manager には、固有のコールパーク電話番号と範囲が必要です。
- Cisco Unified IP Phone 7902 はコールをパークできません（パークされたコールの取得しかできません）。
- Cisco Unified Communications Manager の管理機能は、コールパークの設定に使用するコールパーク番号または範囲を検証しません。無効な番号または範囲、および範囲が重複する可能性を特定するには、Cisco Unified Communications Manager Dialed Number Analyzer ツールを使用します。
- Cisco Unified Communications Manager の管理機能は、Call Park Reversion Timer に入力された値が Call Park Display Timer に入力された値より小さいかどうかをチェックしません。Call Park Reversion Timer に入力した値が Call Park Display Timer の値より小さい場合、コールパーク番号は電話機に表示されません。

設定の詳細については、P.10-12 の「[コールパーク番号の設定](#)」を参照してください。

追加情報

P.10-28 の「[関連項目](#)」を参照してください。

コールパークのインストールとアクティブ化

システム機能のコールパークは、Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアに標準で備わっています。この機能は、特にインストールする必要はありません。

追加情報

P.10-28 の「関連項目」を参照してください。

コールパークの設定

この項の内容は次のとおりです。

- コールパークの設定チェックリスト (P.10-9)
- コールパークのサービスパラメータの設定 (P.10-10)
- コールパーク番号の検索 (P.10-10)
- コールパーク番号の設定 (P.10-12)
- コールパーク番号の削除 (P.10-14)

追加情報

P.10-28 の「関連項目」を参照してください。

コールパークの設定チェックリスト

表 10-1 に、コールパークを設定する際のチェックリストを示します。

表 10-1 コールパークの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 コーリング サーチ スペース内にパーティションを持つユーザだけがパーティションを使用できるようにコールパーク内線番号のパーティションを設定します。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「メディアターミネーションポイントの設定」
ステップ 2 クラスタ内の各 Cisco Unified Communications Manager に対して固有のコールパーク番号を設定するか、コールパーク内線番号の範囲を定義します。	コールパーク番号の設定 (P.10-12)
ステップ 3 適切な Cisco Unified Communications Manager グループに、コールパークで使用されるすべてのサーバを追加します。  (注) サーバと Cisco Unified Communications Manager は、インストール時に設定されます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified Communications Manager グループの設定」
ステップ 4 コールパークにアクセスできる各デバイスに Standard User ソフトキー テンプレートを割り当てます。ソフトキーを使用できない電話機に対しては、Call Park ボタンのある電話ボタン テンプレートが自動的に設定されます。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」

■ コールパークの設定

表 10-1 コールパークの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目	
ステップ 5	<p>[ユーザグループの設定 (User Group Configuration)] ウィンドウで、Standard CTI Allow Call Park Monitoring ユーザグループにアプリケーションとエンド ユーザを割り当てます。これは、コールパーク監視機能を必要とする CTI アプリケーション (Attendant Console など) に関連付けられたユーザだけに適用されます。</p>	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ユーザグループへのユーザの追加」
ステップ 6	<p>コールパーク機能が使用可能であることをユーザに通知します。</p>	ユーザが Cisco Unified IP Phone でコールパーク機能にアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。

追加情報

P.10-28 の「関連項目」を参照してください。

コールパークのサービスパラメータの設定

Cisco Unified Communications Manager には、コールパーク用に、Call Park Display Timer と Call Park Reversion Timer という 2 つのクラスタ全体のサービスパラメータが用意されています。各サービスパラメータではデフォルトが設定されているので、特別な設定は必要ありません。

- Call Park Display Timer : デフォルトでは 10 秒に指定されています。このパラメータは、コールをパークした電話機にコールパーク番号を表示する時間の長さを指定します。このタイマーは、Cisco CallManager サービスとコールパークが設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。
- Call Park Reversion Timer : デフォルトでは 60 秒に指定されています。このパラメータは、コールのパーク状態を継続する時間を指定します。このタイマーは、Cisco CallManager サービスとコールパークが設定されたクラスタ内の各サーバに対して設定します。このタイマーが時間切れになると、パークされたコールは、コールをパークしたデバイスに戻ります。



(注)

タイマーを設定するには、[システム] > [サービスパラメータ] を選択し、[Clusterwide Parameters (Device - General)] ペインの [Call Park Display Timer] フィールドと [Call Park Reversion Timer] フィールドを更新します。

追加情報

P.10-28 の「関連項目」を参照してください。

コールパーク番号の検索

ネットワーク上には複数のコールパーク番号が存在する可能性があるため、Cisco Unified Communications Manager では、特定の条件に基づいて、特定のコールパーク番号を検索できます。コールパーク番号を検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでコールパーク番号の検索プリファレンスが保持されます。他のメニュー項目に移動してこのメニュー項目に戻った場合でも、検索を変更するかブラウザを閉じない限り、コールパーク番号の検索プリファレンスは Cisco Unified Communications Manager の管理ページで保持されています。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [コールパーク] を選択します。

[コールパーク番号の検索と一覧表示 (Find and List Call Park Numbers)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、**ステップ 3** に進みます。

特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注) 別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

ステップ 3 [検索] をクリックします。

すべてのレコードまたは条件に一致するレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウン リスト ボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。



(注) 適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコード リストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.10-28 の「[関連項目](#)」を参照してください。

コールパーク番号の設定

この項では、1つのコールパーク内線番号またはコールパーク内線番号の範囲を追加、コピー、および更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [コールパーク] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。

- 新しいコールパーク番号を追加するには、**[新規追加]** をクリックします。
- コールパーク番号をコピーするには、**P.10-10** の「**コールパーク番号の検索**」の手順を実行してコールパーク番号または番号の範囲を検索します。[コピー] アイコンをクリックします。
- コールパーク番号を更新するには、**P.10-10** の「**コールパーク番号の検索**」の手順を実行してコールパーク番号または番号の範囲を検索します。

[コールパーク番号の設定 (Call Park Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力するか更新します (**表 10-2** を参照)。

ステップ 4 新規コールパーク番号または変更されたコールパーク番号をデータベースに保存するには、**[保存]** をクリックします。






追加情報

P.10-28 の「**関連項目**」を参照してください。

コールパークの設定項目

表 10-2 に、コールパークの設定項目を示します。関連する手順については、P.10-28 の「関連項目」を参照してください。

表 10-2 コールパークの設定項目

フィールド	説明
[コールパーク番号/範囲 (Call Park Number/Range)]	<p>コールパーク内線番号を入力します。数字列またはワイルドカード文字 X（システムでは 1 つまたは 2 つの X を使用できます）を入力できます。たとえば、5555 を入力すると 1 つのコールパーク内線番号 5555 が定義され、55XX を入力すると 5500 ~ 5599 のコールパーク内線番号の範囲が定義されます。</p> <p> (注) 1 つのコールパーク範囲の定義で、最大 100 のコールパーク番号を作成できます。コールパーク番号は固有の番号にしてください。</p> <p> (注) Cisco Unified Communications Manager サーバ間でコールパーク番号が重複することがないようにしてください。各 Cisco Unified Communications Manager サーバの番号範囲は固有である必要があります。</p>
[説明 (Description)]	このコールパーク番号に簡単な説明を付けます。
[パーティション (Partition)]	<p>パーティションを使用してコールパーク番号へのアクセスを制限する場合は、ドロップダウン リストボックスから希望のパーティションを選択します。コールパーク番号へのアクセスを制限しない場合は、パーティションに [<なし>] を選択します。</p> <p>多数のパーティションが設定されている場合のパーティションの検索手順については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの検索 (パーティションが多数ある場合)」を参照してください。</p> <p> (注) コールパーク内線番号とパーティションの組み合わせが、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[Cisco Unified CM]	<p>ドロップダウン リストボックスを使用して、コールパーク番号が適用される Cisco Unified Communications Manager を選択します。</p> <p> (注) 1 つのコールパーク範囲の定義で、最大 100 のコールパーク番号を作成できます。コールパーク番号は固有の番号にしてください。</p> <p> (注) Cisco Unified Communications Manager サーバ間でコールパーク番号が重複することがないようにしてください。各 Cisco Unified Communications Manager サーバの番号範囲は固有である必要があります。</p>

コールパーク番号の削除

この項では、Cisco Unified Communications Manager データベースからコールパーク番号を削除する方法を説明します。

手順

-
- ステップ 1** P.10-10 の「[コールパーク番号の検索](#)」の手順を実行して、コールパーク番号またはコールパーク番号の範囲を検索します。
- ステップ 2** 削除するコールパーク番号またはコールパーク番号の範囲をクリックします。
- ステップ 3** **[削除]** をクリックします。



(注) コールパーク番号の横にあるチェックボックスをオンにして **[選択項目の削除]** をクリックすることによって、**[コールパーク番号の検索と一覧表示 (Find and List Call Park Numbers)]** ウィンドウから複数のコールパーク番号を削除できます。**[すべてを選択]** をクリックして **[選択項目の削除]** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのコールパーク番号を削除できます。

追加情報

P.10-28 の「[関連項目](#)」を参照してください。

ダイレクトコールパーク

ダイレクトコールパークは、ユーザが選択し、待機状態になっているダイレクトコールパーク番号に対して、ユーザがコールを転送できる機能です。ダイレクトコールパーク番号は、Cisco Unified Communications Manager の [ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウで設定します。設定されたダイレクトコールパーク番号は、クラスタ全体に存在します。電話機がダイレクトコールパーク ビジー ランプ フィールド (BLF; Busy Lamp Field) をサポートしている場合、特定のダイレクトコールパーク番号のビジー/アイドルステータスを監視するようにその電話機を設定できます。また、ユーザは BLF を使用してダイレクトコールパーク番号を短縮ダイヤルすることもできます。BLF をサポートしている電話機モデルのリストについては、[P.10-17](#) の「[インタラクションおよび制限事項](#)」を参照してください。

この章では、ダイレクトコールパークに関する次の情報を提供します。

- [ダイレクトコールパークの概要 \(P.10-16\)](#)
- [ダイレクトコールパークのシステム要件 \(P.10-17\)](#)
- [インタラクションおよび制限事項 \(P.10-17\)](#)
- [ダイレクトコールパークのインストールとアクティブ化 \(P.10-20\)](#)
- [ダイレクトコールパークの設定チェックリスト \(P.10-20\)](#)
- [ダイレクトコールパークのサービスパラメータの設定 \(P.10-21\)](#)
- [ダイレクトコールパーク番号の検索 \(P.10-22\)](#)
- [ダイレクトコールパーク番号の設定 \(P.10-23\)](#)
- [ダイレクトコールパークの設定項目 \(P.10-24\)](#)
- [BLF/ダイレクトコールパーク ボタンの設定 \(P.10-25\)](#)
- [BLF/ダイレクトコールパークの設定項目 \(P.10-26\)](#)
- [ダイレクトコールパーク番号の削除 \(P.10-26\)](#)
- [関連項目 \(P.10-28\)](#)

ダイレクトコールパークの概要

Cisco Unified Communications Manager が、各ダイレクトコールパーク番号でパークできるコールは 1 つだけです。パークされたコールを取得するには、ユーザは、設定された取得用プレフィックスをダイヤルしてから、コールがパークされているダイレクトコールパーク番号をダイヤルする必要があります。取得用プレフィックスは、[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウで設定します。

例 10-1 ダイレクトコールパーク機能の使用

次の例では、ダイレクトコールパーク機能の使用方法を示します。

1. ユーザ A1 および A2 がコールで接続されます。
2. コールをパークするには、A1 は [転送] ソフトキー (または、使用可能であれば [転送] ボタン) を押し、ダイレクトコールパーク番号 (たとえば 80) をダイヤルするか、ダイレクトコールパーク番号 80 の BLF ボタン (電話機モデルが BLF ボタンをサポートしている場合) を押します。
3. A1 は、[転送] ソフトキー (または [転送] ボタン) をもう一度押すか、またはオンフックにして、ダイレクトコールパーク転送を完了します。この操作によって、A2 はダイレクトコールパーク番号 80 にパークされます。



(注) Transfer On-hook Enabled サービスパラメータが [True] に設定されている場合は、[転送] ソフトキー (または [転送] ボタン) をもう一度押すのではなく、オンフックにするだけで転送を完了できます。『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「オンフックコール転送」を参照してください。

4. 正しく設定されたパーティションとコーリング検索スペースを備える任意の電話機から、ユーザ B1 は、ダイレクトコールパークプレフィックス (たとえば 21) をダイヤルしてからダイレクトコールパーク番号 80 をダイヤルし、コールを取得します。B1 は A2 に接続します。

例 10-2 ダイレクトコールパーク機能の使用

1. ユーザ A1 および A2 がコールで接続されます。
2. コールをパークするには、A1 は [転送] ソフトキー (または、使用可能であれば [転送] ボタン) を押し、ダイレクトコールパーク番号 (たとえば 80) をダイヤルするか、ダイレクトコールパーク番号 80 の BLF ボタン (電話機モデルが BLF ボタンをサポートしている場合) を押します。
3. A1 は、[転送] ソフトキー (または [転送] ボタン) をもう一度押すか、またはオンフックにして、ダイレクトコールパーク転送を完了します。この操作によって、A2 はダイレクトコールパーク番号 80 にパークされます。



(注) Transfer On-hook Enabled サービスパラメータが [True] に設定されている場合は、[転送] ソフトキー (または [転送] ボタン) をもう一度押すのではなく、オンフックにするだけで転送を完了できます。『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「オンフックコール転送」を参照してください。

4. Call Park Reversion Timer (サービスパラメータ) が時間切れになる前に、コールが取得されることはありません。
5. A2 は設定された復帰番号を復元します。

追加情報

P.10-28 の「関連項目」を参照してください。

ダイレクトコールパークのシステム要件

ダイレクトコールパークが動作するには、次のソフトウェアコンポーネントが必要です。

- Cisco Unified Communications Manager 6.0 以降

ユーザは、Cisco Unified IP Phone 7905、7912、7920、7940、7960、7970 など、転送を実行できる電話機からダイレクトコールパークを使用して、コールをパークおよび取得できます。Cisco VG248 Analog Phone Gateways もダイレクトコールパークをサポートしています。

ダイレクトコールパーク BLF をサポートしている SCCP および SIP 電話機は、次のとおりです。

- Cisco Unified IP Phone (7941、7961、7970、7971)

ダイレクトコールパーク BLF をサポートしている SCCP 電話機は、次のとおりです。

- Cisco Unified IP Phone (7905、7912、7920、7940、7960)
- Cisco Unified IP Phone 拡張モジュール 7914

追加情報

P.10-28 の「関連項目」を参照してください。

インタラクションおよび制限事項

次の項では、ダイレクトコールパークにおけるインタラクションおよび制限事項について説明します。

- [インタラクション \(P.10-17\)](#)
- [制限事項 \(P.10-19\)](#)

インタラクション

次の各項では、ダイレクトコールパークが Cisco Unified Communications Manager アプリケーションおよびコール処理と通信する方法を説明します。

- [Attendant Console \(P.10-17\)](#)
- [保留音 \(P.10-18\)](#)
- [ルートプランレポート \(P.10-18\)](#)
- [コーリングサーチスペースとパーティション \(P.10-18\)](#)
- [即時転送 \(P.10-18\)](#)
- [割り込み \(P.10-18\)](#)
- [コールパーク \(P.10-19\)](#)

Attendant Console

Cisco Unified Communications Manager の管理ページの [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウには、コールパークの場合とは異なり、ダイレクトコールパークの設定またはアクティブ化は含まれません。アテンダントコンソールでのダイレクトコールパークの詳細については、[P.10-19 の「制限事項」](#)を参照してください。

保留音

保留音を使用すると、ユーザは、ストリーミングソースから提供される音楽を使用して、コールを保留にできます。保留音では、次の 2 つのタイプの保留を使用できます。

- ユーザ保留：ユーザが保留ボタンまたは [保留] ソフトキーを押すと、システムによってこのタイプの保留が呼び出されます。
- ネットワーク保留：ユーザが転送、会議、またはコールパーク機能をアクティブにすると、このタイプの保留が自動的に呼び出されます。ダイレクトコールパークは転送機能であるため、この保留のタイプはダイレクトコールパークに適用されます。

ルートプランレポート

ルートプランレポートには、Cisco Unified Communications Manager で設定されているパターンと電話番号が示されます。ダイレクトコールパークに電話番号を割り当てる前に、ルートプランレポートを使用して、パターンと電話番号の重複を検索します。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートプランレポート」の章を参照してください。

コーリングサーチスペースとパーティション

デバイスのコーリングサーチスペースに基づいてユーザによるダイレクトコールパークへのアクセスを制限するには、ダイレクトコールパーク電話番号または範囲をパーティションに割り当てます。『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「コーリングサーチスペースの設定」および「パーティションの設定」を参照してください。

即時転送

ダイレクトコールパークは即時転送（[即転送] ソフトキー）をサポートしています。たとえば、ユーザ A がユーザ B にコールし、ユーザ B がコールをパークしたとします。ユーザ B はコールを取得し、[即転送] ソフトキーを押してそのコールをボイスメールメールボックスに送信しました。ユーザ A に、ユーザ B のボイスメールメールボックスのグリーティングが再生されます。

割り込み

次に、ダイレクトコールパークでの割り込みと C 割り込みの違いについて説明します。

ダイレクトコールパークでの割り込み

発信先の電話機（割り込み先の電話機）がコールを制御します。割り込みの発信側は発信先の電話機に「ビジーバックキング」します。割り込み中でも、共通機能のほとんどが発信先の電話機に属しているので、割り込みの発信側は機能を利用できません。ダイレクトコールパークを使用して発信先がコールをパークした場合、割り込みの発信側はそのコール（割り込み）をリリースする必要があります。

ダイレクトコールパークでの C 割り込み

割り込みの発信先と発信側はピアとして動作します。C 割り込み機能は会議ブリッジを使用し、それをミートミー会議のように動作させます。両方の電話機（割り込みの発信先と発信側）がそれぞれの機能を完全に保持できます。

コールパーク

ダイレクトコールパークとコールパーク用 [パーク] ソフトキーを同時に設定しないことをお勧めしますが、両方を設定する可能性もあります。両方を設定する場合、コールパークとダイレクトコールパークの番号が重複しないことを確認してください。

ダイレクトコールパーク機能を使用してパークされた発信者 (parkee) は、パークされている間は標準のコールパーク機能を使用できません。

制限事項

ダイレクトコールパークには、次の制限事項があります。

- Cisco Unified Communications Manager が、各ダイレクトコールパーク番号でパークできるコールは 1 つだけです。
- 各ダイレクトコールパーク内線番号、パーティション、および範囲が、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。[パーク] ソフトキーもアクティブになっている場合 (推奨されていません)、コールパーク番号とダイレクトコールパーク番号の間に重複がないことを確認してください。
- ダイレクトコールパーク機能を使用してパークされた発信者 (parkee) は、パークされている間は標準のコールパーク機能を使用できません。
- ダイレクトコールパーク BLF は、ダイレクトコールパーク番号の範囲を監視できません。ダイレクトコールパーク BLF を使用してユーザが監視できるのは、個々のダイレクトコールパーク番号だけです。たとえば、ダイレクトコールパーク番号の範囲 8X を設定しても、ダイレクトコールパーク BLF を使用して 80 ~ 89 の範囲全体を監視することはできません。
- Attendant Console のアテンダントは、[打診転送] ボタンを使用して、ダイレクトコールパーク番号にコールを送信する必要があります。アテンダントが [転送] ボタンを使用すると、復元タイマー期間が切れた場合にコールがアテンダントに戻されなくなり、発信者にはリオーダー音が聞こえます。
- デバイスが (BLF ボタンを使用して) 監視するように設定されているダイレクトコールパーク番号は削除できません。ダイレクトコールパーク番号または範囲は使用中で削除できないことを示すメッセージが表示されます。番号を使用しているデバイスを判別するには、[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウにある [依存関係レコード] リンクをクリックします。
- 復帰番号が設定されていない場合、Call Park Reversion Timer が時間切れになった後、コールは parker (パーク側) に戻されます。SIP 電話機用のダイレクトコールパークは、BLF (Busy Lamp Field) とパークコードへのコール転送を組み合わせたものとして設計されています。転送機能は、SCCP 電話機の転送機能と同じです。SIP 電話機用のダイレクトコールパークには、次の制限事項があります。
 - ダイレクトコールパークは、Cisco SIP IP Phone 7940 および 7960 の [転送] ソフトキーを使用して呼び出されます。
 - Cisco SIP IP Phone 7940 および 7960 でブラインド転送のソフトキーが使用された場合、ダイレクトコールパークはサポートされません。
 - Cisco SIP IP Phone 7940 と 7960、およびサードパーティの SIP 電話機でのダイレクトコールパーク BLF はサポートされません。
 - ダイレクトコールパーク BLF をサポートする Cisco SIP IP Phone は、7941、7961、7970、および 7971 です。

設定の詳細については、P.10-23 の「ダイレクトコールパーク番号の設定」を参照してください。

追加情報

P.10-28 の「関連項目」を参照してください。

ダイレクトコールパークのインストールとアクティブ化

ダイレクトコールパークのシステム機能は、Cisco Unified Communications Manager ソフトウェアに標準で備わっています。転送を実行できる電話機であれば、ダイレクトコールパークを使用できます。この機能は、特にインストールする必要はありません。コールパークまたはダイレクトコールパークのいずれか一方を設定する（両方を設定しない）ことをお勧めします。両方を設定する場合、ダイレクトコールパークとコールパークの番号が重複しないことを確認してください。

追加情報

P.10-28 の「関連項目」を参照してください。

ダイレクトコールパークの設定

この項の内容は次のとおりです。

- [ダイレクトコールパークの設定チェックリスト \(P.10-20\)](#)
- [ダイレクトコールパークのサービスパラメータの設定 \(P.10-21\)](#)
- [ダイレクトコールパーク番号の検索 \(P.10-22\)](#)
- [ダイレクトコールパーク番号の設定 \(P.10-23\)](#)
- [ダイレクトコールパークの設定項目 \(P.10-24\)](#)
- [BLF/ダイレクトコールパーク ボタンの設定 \(P.10-25\)](#)
- [BLF/ダイレクトコールパークの設定項目 \(P.10-26\)](#)
- [ダイレクトコールパーク番号の削除 \(P.10-26\)](#)



ダイレクトコールパークの設定チェックリスト

表 10-3 に、ダイレクトコールパークを設定する際のチェックリストを示します。

表 10-3 ダイレクトコールパークの設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 コーリング サーチ スペース内にパーティションを持つユーザだけがパーティションを使用できるようにダイレクトコールパーク番号のパーティションを設定します。パークされたコールを正常に取得するには、ユーザがコールを取得するコーリング サーチ スペースに、ダイレクトコールパーク番号を含むパーティションが含まれている必要があります。	『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「メディアターミネーションポイントの設定」 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「コーリングサーチスペースの設定」

表 10-3 ダイレクトコールパークの設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
<p>ステップ 2 固有のダイレクトコールパーク番号を定義するか、ダイレクトコールパーク番号の範囲を定義します。範囲は、ワイルドカードを使用して指定する必要があります。たとえば、範囲 40XX は、4000 ~ 4099 の範囲を設定します。</p> <p> 注意 4000-4040 のように、ダッシュを使用して範囲を入力しないでください。</p> <p> (注) ダイレクトコールパーク BLF を使用してユーザが監視できるのは、個々のダイレクトコールパーク番号だけです。番号の範囲を設定しても、BLF は、範囲または範囲内の任意の番号のビジー/アイドルステータスの監視をサポートすることはできません。</p>	<p>ダイレクトコールパーク番号の設定 (P.10-23)</p>
<p>ステップ 3 ダイレクトコールパークにアクセスできる各デバイスに Standard User ソフトキーテンプレート割り当てます。ソフトキーを使用できない電話機に対しては、[転送] ボタンのある電話ボタンテンプレートが自動的に設定されます。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキーテンプレートの設定」</p>
<p>ステップ 4 ダイレクトコールパーク BLF をサポートする電話機モデルについては、1 つまたは複数の [コールパーク BLF] ボタンを含むように電話ボタンテンプレートを設定し、ダイレクトコールパーク BLF の設定値を設定します。</p>	<p>『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「電話ボタンテンプレートのカスタマイズのガイドライン」</p> <p>BLF/ダイレクトコールパークボタンの設定 (P.10-25)</p>
<p>ステップ 5 ダイレクトコールパーク機能が使用可能であることをユーザに通知します。</p>	<p>ユーザが Cisco Unified IP Phone でダイレクトコールパーク機能にアクセスする方法については、電話機のマニュアルを参照してください。</p>

追加情報

P.10-28 の「関連項目」を参照してください。

ダイレクトコールパークのサービスパラメータの設定

Call Park Reversion Timer のクラスタ全体のサービスパラメータは、ダイレクトコールパークに影響を与えます。このパラメータは、コールのパーク状態を継続する時間を指定します。デフォルトは 60 秒です。このタイマーが時間切れになると、パークされたコールは、[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウの設定に応じて、コールをパークしたデバイスまたは別の指定された番号に戻されます。

追加情報

P.10-28 の「関連項目」を参照してください。

ダイレクトコールパーク番号の検索

ネットワーク上には複数のダイレクトコールパーク番号が存在する可能性があるため、Cisco Unified Communications Manager では、特定の条件に基づいて、特定のダイレクトコールパーク番号を検索できます。ダイレクトコールパーク番号を検索するには、次の手順を実行します。



(注)

ブラウザセッションでの作業中は、Cisco Unified Communications Manager の管理ページでダイレクトコールパーク番号の検索プリファレンスが保持されます。他のメニュー項目に移動してこのメニュー項目に戻った場合でも、検索を変更するかブラウザを閉じない限り、ダイレクトコールパーク番号の検索プリファレンスは Cisco Unified Communications Manager の管理ページで保持されています。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ダイレクトコールパーク] を選択します。

[ダイレクトコールパークの検索と一覧表示 (Find and List Directed Call Parks)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空になっていることを確認し、[ステップ 3](#)に進みます。

特定のレコードをフィルタリングまたは検索するには、次の操作を実行します。

- 最初のドロップダウンリストボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウンリストボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索文字を入力します。



(注)

別の検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加した場合は、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして、最後に追加された条件を削除するか、または [フィルタのクリア] ボタンをクリックして、追加されたすべての検索条件を削除します。

ステップ 3 [検索] をクリックします。

すべてのレコードまたは条件に一致するレコードが表示されます。[ページあたりの行数] ドロップダウンリストボックスで別の値を選択すると、各ページに表示される項目数を変更できます。



(注)

適切なレコードの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除] をクリックすると、データベースから複数のレコードを削除できます。[すべてを選択] をクリックして [選択項目の削除] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 表示されたレコードリストから、目的のレコードのリンクをクリックします。



(注) ソート順を逆にするには、リストのヘッダーにある上矢印または下矢印をクリックします (使用可能な場合)。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

P.10-28 の「関連項目」を参照してください。

ダイレクトコールパーク番号の設定

この項では、1つのダイレクトコールパーク内線番号またはダイレクトコールパーク内線番号の範囲を追加、コピー、および更新する方法について説明します。

手順

ステップ 1 [コールルーティング] > [ダイレクトコールパーク] を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの手順を実行します。

- 新しいダイレクトコールパーク番号を追加するには、[新規追加] をクリックします。
- ダイレクトコールパーク番号をコピーするには、P.10-22 の「ダイレクトコールパーク番号の検索」の手順を実行してダイレクトコールパーク番号または番号の範囲を検索します。[コピー] アイコンをクリックします。
- ダイレクトコールパーク番号を更新するには、P.10-22 の「ダイレクトコールパーク番号の検索」の手順を実行してコールパーク番号または番号の範囲を検索します。

[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 適切な設定値を入力するか更新します (表 10-4 を参照)。

ステップ 4 新規コールパーク番号または変更されたコールパーク番号をデータベースに保存するには、[保存] をクリックします。



(注) ダイレクトコールパーク番号を更新すると、Cisco Unified Communications Manager は、その番号でパークされたコールをただちに戻します。これは、ダイレクトコールパーク番号を更新すると、Cisco Unified Communications Manager が、実際に以前の情報を削除してから新しい情報を追加するためです。以前の情報が削除された時点で、その番号にパークされたコールはパーク状態を維持できなくなるか、通常の方法では取得できなくなり、元に戻す必要があります。



(注) ダイレクトコールパーク番号または範囲を変更するたびに、BLF を使用してそれらのダイレクトコールパーク番号を監視するように設定されているデバイスを再起動して、表示を修正する必要があります。変更通知により、ダイレクトコールパーク番号が検出されると、影響を受けるデバイスは自動的に再起動されます。[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウの [複数のデバイスの再起動] ボタンを使用することもできます。



追加情報

P.10-28 の「関連項目」を参照してください。

ダイレクトコールパークの設定項目

表 10-4 に、ダイレクトコールパークの設定項目を示します。

表 10-4 ダイレクトコールパークの設定項目

フィールド	説明
[番号]	ダイレクトコールパーク番号を入力します。数字列またはワイルドカード文字 X（システムでは 1 つまたは 2 つの X を使用できます）を入力できます。たとえば、5555 を入力すると 1 つのダイレクトコールパーク内線番号 5555 が定義され、55XX を入力すると 5500 ~ 5599 のコールパーク内線番号の範囲が定義されます。ダイレクトコールパーク番号が固有の番号であり、コールパーク番号と重複しないことを確認してください。
[説明]	このダイレクトコールパーク番号または範囲に簡単な説明を付けます。
[パーティション]	<p>パーティションを使用してダイレクトコールパーク番号へのアクセスを制限する場合は、ドロップダウンリストボックスから希望のパーティションを選択します。ダイレクトコールパーク番号へのアクセスを制限しない場合は、パーティションをデフォルトの [<なし>] のままにしておきます。</p> <p>多数のパーティションが設定されている場合のパーティションの検索手順については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの検索（パーティションが多数ある場合）」を参照してください。</p> <p> (注) ダイレクトコールパーク番号とパーティションの組み合わせが、Cisco Unified Communications Manager クラスタ内で固有であることを確認してください。</p>
[復帰番号]	<p>パークされているコールが取得されない場合にそのコールを戻す番号を入力するか、このフィールドを空白にしておきます。</p> <p> (注) 復帰番号は、数字のみで構成されます。ワイルドカードは使用できません。</p>
[復帰コーリングサーチスペース (Reversion Calling Search Space)]	ドロップダウンリストボックスを使用してコーリングサーチスペースを選択するか、コーリングサーチスペースをデフォルトの [<なし>] のままにしておきます。
[取得用プレフィックス (Retrieval Prefix)]	この必須フィールドにはパークされたコールを取得するためのプレフィックスを入力します。パークされたコールを取得する試行とダイレクトパークを開始する試行を区別するための取得用プレフィックスが必要です。

**(注)**

ダイレクトコールパーク番号を変更するたびに、ダイレクトコール BLF を使用してそれらのダイレクトコールパーク番号を監視するように設定されているデバイスを再起動して、表示を修正する必要があります。変更通知により、ダイレクトコールパーク番号が検出されると、影響を受けるデバイスは自動的に再起動されます。[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウの [複数のデバイスの再起動] ボタンを使用することもできます。

追加情報

P.10-28 の「[関連項目](#)」を参照してください。

BLF/ダイレクトコールパーク ボタンの設定

BLF/ダイレクトコールパーク ボタンを設定するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで BLF/ダイレクトコールパーク ボタンを設定するには、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」の章の説明に従って、電話機を検索します。
- ステップ 2** ユーザ デバイス プロファイルに対して BLF/ダイレクトコールパーク ボタンを設定するには、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「デバイス プロファイルの設定」の章の説明に従って、ユーザ デバイス プロファイルを検索します。
- ステップ 3** 設定ウィンドウが表示されたら、[割り当て情報 (Association Information)] ペインの [**新規 BLF ダイレクトコールパークの追加**] リンクをクリックします。

**ヒント**

電話機またはデバイス プロファイルに適用した電話ボタン テンプレートが BLF/ダイレクトコールパークをサポートしていない場合、このリンクは [割り当て情報 (Association Information)] ペインに表示されません。

- ステップ 4** [表 10-5](#) の説明に従って設定を行います。
- ステップ 5** 設定を完了したら、[保存] をクリックしてウィンドウを閉じます。

[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [割り当て情報 (Association Information)] ペインに、電話番号が表示されます。


追加情報

P.10-28 の「[関連項目](#)」を参照してください。

BLF/ダイレクトコールパークの設定項目

表 10-5 では、BLF/ダイレクトコールパーク ボタンの設定項目を説明します。

表 10-5 BLF/ダイレクトコールパーク ボタンの設定項目

フィールド	説明
[電話番号 (Directory Number)]	<p>[電話番号 (Directory Number)] ドロップダウン リスト ボックスには、Cisco Unified Communications Manager データベースに存在する電話番号のリストが表示されます。</p> <p>SCCP 電話機または SIP 電話機では、3 で 6002 というように、ユーザが短縮ダイヤル ボタンを押した場合にシステムがダイヤルする番号（および対応するパーティション（表示されている場合））を選択します。特定のパーティションなしで表示される電話番号は、デフォルトパーティションに属します。</p>
[ラベル (Label)]	<p>BLF/ダイレクトコールパーク ボタンに表示するテキストを入力します。</p> <p>このフィールドは国際化をサポートしています。電話機が国際化をサポートしていない場合、システムは [ラベル ASCII (Label ASCII)] フィールドに表示されるテキストを使用します。</p>
[ラベル ASCII (Label ASCII)]	<p>BLF/ダイレクトコールパーク ボタンに表示するテキストを入力します。</p> <p>ASCII ラベルは、[ラベル (Label)] フィールドに入力したテキストの非国際化バージョンを表します。電話機が国際化をサポートしていない場合、システムはこのフィールドに表示されるテキストを使用します。</p>
	<p> ヒント [ラベル (Label)] フィールドとは異なるテキストを [ラベル ASCII (Label ASCII)] フィールドに入力した場合、Cisco Unified Communications Manager の管理ページは、テキストが異なっても両方のフィールドの設定を受け付けます。</p>

ダイレクトコールパーク番号の削除

この項では、Cisco Unified Communications Manager データベースからダイレクトコールパーク番号を削除する方法を説明します。

手順

- ステップ 1** P.10-22 の「ダイレクトコールパーク番号の検索」の手順を実行して、ダイレクトコールパーク番号またはコールパーク番号の範囲を検索します。
- ステップ 2** 削除するダイレクトコールパーク番号またはコールパーク番号の範囲をクリックします。
- ステップ 3** [削除] をクリックします。



(注) ダイレクトコールパーク番号を削除すると、Cisco Unified Communications Manager は、その番号でパークされているコールをただちに戻します。これは、番号が削除されると、その番号にパークされたコールはパーク状態を維持できなくなるか、通常の方法で取得できなくなり、元に戻す必要があるためです。



(注) デバイスが (BLF ボタンを使用して) 監視するように設定されているダイレクトコールパーク番号は削除できません。ダイレクトコールパーク番号は使用中で削除できないことを示すメッセージが表示されます。番号を使用しているデバイスを判別するには、[ダイレクトコールパークの設定 (Directed Call Park Configuration)] ウィンドウにある [依存関係レコード] リンクをクリックします。

追加情報

P.10-28 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [コールパークとダイレクトコールパーク \(P.10-1\)](#)
- [コールパーク番号の設定 \(P.10-12\)](#)
- [コールパーク番号の検索 \(P.10-10\)](#)
- [コールパーク番号の削除 \(P.10-14\)](#)
- [ダイレクトコールパークの設定 \(P.10-20\)](#)
- [ダイレクトコールパーク番号の検索 \(P.10-22\)](#)
- [BLF/ダイレクトコールパーク ボタンの設定 \(P.10-25\)](#)
- [ダイレクトコールパーク番号の削除 \(P.10-26\)](#)
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタンテンプレートの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified IP Phone の設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「メディアターミネーションポイントの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ルートプランレポート」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキーテンプレートの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「ユーザグループの設定」
- 『Cisco Unified Communications Manager システムガイド』の「クラスタ化」
- [Cisco Unified IP Phone アドミニストレーションガイド for Cisco Unified Communications Manager](#)
- [Cisco Unified IP Phone のユーザ資料とリリースノート \(すべてのモデル\)](#)